

いちき串木野市広域協定 (鹿児島県いちき串木野市)

- 鹿児島県薩摩半島の北西部に位置し、温暖な気候に恵まれれ農山漁村活動が盛んな地域に28地区の活動組織が参加し、広域協定を締結している。
- これまで煩雑な活動内容の記録、各組織の事務的指導や書類確認を行う担当職員及び各組織の書記会計の負担軽減のため、常勤の事務職員を雇用し、一元化することで安定した事務処理の体制を構築。
- 定期的な運営委員会を開催することで、活動組織間の交流や情報の共有化を図っている。

- ・取組面積 : 343a
(田262ha・畑74ha・草地7ha)
- ・資源量 : 水路 95.8km 農道 73.8km
パイプライン 33.7km ため池7箇所
- ・主な構成員 : 自治会、農業者、子供会
- ・交付金 : 約2316万円(R2)
維持・共同 1489万円
長寿命化 827万円

活動開始前の状況や課題

- 平成19年に水土里サークル活動を開始し、順調に地区数、協定面積を増やしてきたものの年を追うごとに更新を行わない地区が出てきた。
- 活動を行えば行うほど、事務処理の負担が増加し、活動の消極化を招く結果となり、加えて会計担当の選任に苦慮する組織が増加。
- 各組織ごとの予算だけでは大規模な修繕を行えず、組織間において修繕規模の各差が生じた。



ワーキンググループによる意見交換

取組内容

- 平成27年9月25日に広域協定を締結しいちき串木野市広域協定として発足。
- 事務局に事務職員を雇用し、これまで各組織ごとに作成していた報告書作成や写真整理の事務処理を一本化した。
- 組織単位では難しい大規模な補修が行えるよう組織単位ではなく地区単位で予算を配分し、各地区で現地を確認し、話し合いによる施工箇所を決定すようにした。

【協定締結時の様子】



取組の効果

- 各組織の会計担当の負担が軽減され、活動が活発化するともに事務局への定期的な資料提出の際に質問・指導を受けることで活動費の使用目的が明確に示されることや事務局とのコミュニケーションが増え、効率的な運営が可能となった。
- 定期的な運営委員会を開催することで活動組織間の交流や情報の共有化が図れるようになった。
- 長寿命化の予算運用について輪番制を導入し、計画的で比較的大規模な修繕を行うことが可能となった。



小学校の種まき体験



田植え体験

きっかけ

持続可能な農地維持と地域資源の管理が必要

Step1 (~H27)

いちき串木野市広域協定 結成前

- いちき串木野市広域協定締結前は、8地区(串木野地域5地区、市来3地区)で活動し、締結前まで順調に活動組織と面積を増やしてきたものの煩雑な事務処理が大きな壁となり、離脱する活動組織が出てきはじめた。

Step2 (H27)

広域化にむけた準備

- 広域化に向けた説明会をはじめ設立委員会を発足。
- 役員を選任や日当等の金額調査を実施。
- 事務員雇用に向けた資料の収集、金額調査



施設補修講習会



ジャンボタニシ「捕獲大成功！」

ジャンボタニシ捕獲
(民放で放映されました)



当市事務局がシンポジウムで講演



役員会議

Step3 (H27.9.25)

いちき串木野市広域協定 協定設立

- いちき串木野市広域協定を締結。
- 市内28の活動組織が参加し、活動を開始。地域環境の保全活動強化に加え持続可能な営農運営に取り組み

将来に向けて

持続可能な営農運営と地域資源の管理を目標として、取組んできたものであるが、全体として高齢化による参加人数の減少が懸念され、担い手育成は必須である。農業への理解を推進させるためにも都市との交流を推進しつつこれまで行ってきた活動水準を維持していくことを目標に活動していく。

今後の展望

Step5

事務職員設置の効果

- 広域活動発足から事務職員を置くことで、活動組織の事務処理の負担が大幅に改善したことに加え、作成書類の統一化が図られるなど、事務処理を一元化したことで職員への負担も軽減されるなどの効果が得られた。

Step4

取組内容の向上

運営委員会を定期的に実施することで、活動組織間の連携と情報共有が各活動組織のモチベーションの向上に繋がり、活動の取り組み内容が向上。

- 遊休農地の解消
- 農業施設の適正管理
- 都市間との交流が向上
- 地域を巻き込んだ取組み



定期的な運営委員会の開催